

保育計画(新規事業計画)成果報告書

法人名等	株式会社 セリオ
施設名	トレジャーキッズそめのい保育園
報告者（役職）	増田 美由紀（園長）
住所・連絡先	大阪府吹田市江坂町 2-26-5
	☎ 06-6318-5200

○タイトル（保育計画 or 新規事業計画）

子どもの意欲が高まる環境・素材☆宝の山アトリエ☆

○主な助成備品

アトリエ建設費用・製作ワゴン・製作テーブル・木材セット・ハケ・筆など

1. 保育計画(新規事業計画)策定の目的

子どもたちに、小さなケガを恐れず、一生の力、経験を！

子どもたちがのこぎり・かなづちを使いながら木と向き合ったり、何週間もかけて、自分の作品を手掛けたり、汚れることを気にせず、ペンキ絵具を使いドロドロになったり、子どもそれぞれで、目的はそれぞれにあり、表現し満足感、達成感、経験を経て、成長し、一生の力になるそんな場所に！

小さなケガをすることは、大きなケガから自分を守ることにもつながります。

大工仕事を集中して行えるそんな素敵な場所が園内にあり、作りかけの作品がおいてあり木工道具などが整理・管理されている楽しいワクワクスペースを子どもたちに提供したいと考えていました。

木にやすりをかけて磨きながら、おしゃべりするコミュニケーションの時間や、お友だちの作品を観察する時間、一人で集中して作品に向き合う時間、迷ったりわからないことがあった時に頼れる先生が近くで見守ってくれている、安心感。

すべての時間が子どもたちにとって宝物になるように。そんな素敵な経験・時間を作っていきたいと思っていました。

子どもに関わる全ての大人が、常に丁寧な関わり方をしながら子どもを愛すること。

このような経験から自分自身が愛される経験をし、他人を愛せるようになり、自己肯定感や意欲に満ち溢れたしっかりとした心の土台が形成されていくと思います。

そんな、子どもを育ていけるように、見守る保育士が子どもたちの「やってみたい！」

「たのしい！」へと導けるように保育園全体の質向上を目標に実現を目指していきたいという思いから保育計画を策定いたしました。

2. 具体的な実施内容

- (1) 月2回アウトドアクラブを実施していて、講師の先生にかなづち・のこぎり・電動ドリルの扱い方、力の入れ方などを、教えてもらっています。アトリエの中に数名ずつ入り、講師の先生とじっくり集中して工具の使用ができています。換気扇もあり、工具などの危険な物を収納するので、鍵もついていてアトリエの使い方を職員で話し合い、アトリエの中も少しずつ整えていっています。



- (2) 2024年度卒園児がアトリエの棚を卒園制作で作成。自分たちで、何を使って作るか、どこに設置するかを話し合いながら、一から決め作成しました。ペンキを初めて使い絵具との違いを認識し、自分たちが一から作成し、物がアトリエにずっとあり受け継がれていくことにワクワクしています。



- (3) 3歳児から5歳児幼児クラスの年齢ごとに、やすりを使い、木材をつるつるにし、つみきを作成。
5歳児は仕上げに、ハケで天然オイルを塗ってピカピカに！！幼児クラスのお部屋で色々な用途で遊びに使用しています。



平らな板に釘をたくさん打ち、輪ゴムで道を作り、ビー玉転がしを作成。かなづちの扱いが日に日に上手になり、まっすぐ打てるようになりました。



保育の中でも、ヤスリがけや、ペンキ塗りなどアウトドアの講師の先生がいなくても進めて行けることはドンドン進めて行き、保育とアウトドアクラブと連携し取り組んでいます。

(4) 5歳児は自分たちで立てたテントでお泊り保育を実施しました。アウトドアクラブの時間の中でテント設営を講師の先生と行い、テントの端を持つお手伝いや、骨組みを組み立てていき、テントが完成してくると、子どもたちから中に入りたーい！！とリクエスト。中にマットを引いたり、寝袋のセッティングなども自分たちで行いました。釘と、くい打ち方の違いや、力の入れ方の違いなど、工夫しながら取り組んでいました。今まで行ってきた釘打ちの技術がとても役に立ちました。



3. その成果と評価

- ・ 講師の先生から丁寧に指導していただくことで、工具の使い方の基礎がわかり、力の入れ方がわかり、1人でも使えるようになった。

← 時間をかけて、基礎から取り組むことで、安心して自信をもって一人でも工具が使えるようになった。

- ・ 子どもたちの意外な才能が沢山発見でき、子どもたちの素敵な一面が見られることが沢山あります。

← 普段の遊びの中で集中できない子が、珍しい工具や取り組みに力を発揮する場面が見られた。

- ・ 最後まで自分たちで何かを作成したり、大人が常に丁寧な関わりをすることによって、園の保育方針に入っている非認知能力を育てていくこと、子どもたちの自己肯定感の向上につながっている。

← 何に対しても、取り組むときの集中力が増しました。

- ・ 行事で、アトリエ紹介や子どもたちの作成したものを保護者に見てもらったり、園見学に来てくださった保護者の方に案内し、他では珍しい取り組みをしていることを知ってもらい興味をもってもらうことができた。

← 普段の生活の中では引き出すことのできない体験ができることが好評です。

- ・ 職員の意識（安全と保育の提供）の変化があり、子どもたち自身が成長できるための環境や道具の設定の大切さなどが保育の中でも生かされてきているように思う。

← 安全面に考慮しながら、子どもたち一人ひとりの姿を見て、その子にとって必要なことを見つける力が前よりついた。

- ・ 卒園制作の作成を、子どもたちが発想して、材料や必要な物を伝えに来てくれたり、自分たちで考えた物を最後まで作成する楽しさと満足感、達成感を味わい成長している。

← 心を動かし感性を働かせ、じっくりと集中する力もついてきています。

4. 今後の課題と展望

アトリエの中の環境をもう少し整え、いつでも気軽に使えるようにしていく。
乳児や、地域の方や、子育て支援などでも使用できるように使用方法を職員で検討していく必要がある。
かんたんな工具が使用できる体験会などの実施なども検討していきたいです。

最終段階として、職員・子どもたちもアトリエの使用方法、工具の扱いなどを理解し、安全考慮の上、アトリエ開放時間を設定し好きな時に利用できるような空間にしたいと思っています。

たくさん、職員で話し合い、アトリエを有効活用していきたいです。

以上